



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立手稲宮丘小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■好きな本を知る・知らせる

開放図書館の取組のひとつである「図書館まつり」では、参加した子どもたちが、自分の好きな本を葉っぱ型のカードに書き、それを貼っていくことで、自分の好きな本を見直したり、友達の好きな本を知ったりするきっかけになりました。また、その掲示により本校図書館「アカゲラの森」が子どもたちの「読みたい」という気持ちにより、豊かになっていく様子も表されています。



■好きな本を選ぶ・読む

6年国語「私と本」の学習では、自分が好きな本を選び、感想文を書くという学習を行いました。読書の好き嫌いに関わらず、自分と読書の関係を見直すきっかけになりました。読書が好きな児童は、読書によって自分にどんなよさがあるのかを考えることができました。また、読書が苦手だった児童も、自分の選んだ本のよさや面白さを見付けることで読書のよさを感じることができました。

学習センターとしての機能

■本を活用して好きな〇〇を選ぶ

本には、たくさんの情報（本）を並べたり比べたりして見るができるよさがあります。特に4・5年生では、国語の学習で「好きな詩を選ぶ」という学習があります。テーマを決めて、そのテーマに合う詩を選んだり、作者にこだわって詩を選んだりすることができました。

■すぐ手に取れる辞書・辞典

3年生以降は、学習の中で辞書などを用いる機会が増えていきます。そのため、国語辞典や漢字辞典などを移動式書架に載せ、教室の近くに常設しています。こうすることで、分からない言葉や漢字などはすぐに調べることができます。また、辞典や辞書を引くという作業にも慣れることができます。

情報センターとしての機能

■図書館の利用指導

どの学年も、4月に図書館の利用の仕方を学習します。図書館の過ごし方や借り方・返し方のルールを振り返るとともに、国語の学習と関連させながら、学年によっては分類記号も学びます。それによって、自分で何かを調べるときに本を活用する際、どれを選び取るか考えるためのヒントにすることをねらっています。



■必要な情報を選び取る

6年国語「発見、日本文化のみ力」では、和菓子や楽器、踊りなど、日本文化について調べる学習を行いました。インターネットを用いて調べることができても、知りたいことに合わせて本を選び、情報を集めることができました。